

G-Bowl

Gドライブトレーニングツール

・品番 OBG-001 ・価格 ¥8,400 - (税別)

・商品説明

本製品は、安全運転及びドライバー運転技術向上等を目的とした製品です。日常の安全速度域で、発生する重力加速度(G)、すなわち加速G・減速G・旋回Gの各々と、その全てを複合的にコントロールすることにより、運転技術を向上させる為の製品です。Gの測定と言うと、サーキット走行時等に各種測定器によるデータチェックを思い出します。

サーキット走行時の測定データは、主にマシン状態、走行ライン検討等のデータ収集を主な目的としたものです。

当然その測定器を運転技術のトレーニングに使用することは出来ませんが、Gを揃えようとか、Gを抑えようと言う意識には到達し

づらく、結果トレーニングと言うよりドライバーの都合で運転をした結果、Gがどれ位発生したか測定するだけとなりがちです。

その点本製品の構成は、ボウル(皿)の中にボールを入れてその転がり具合でチェックするという極めて単純な構成で、使用者の意識には関係なく設定してあるGを超えると、ボウルからボールが外にこぼれ測定終了になります、したがって単純だけに判り易いし言い訳も出来ないし。

一般路をラジアルタイヤで走行時に発生する、限界値(G)の約半分である0.4Gを超えると、ボールが外にこぼれるように設計されています。したがって限界領域ではなく、日常的な安全速度域でGコントロールのトレーニングをすることができ、ドライビングのスキルアップを図れるアイテムです。

・ご使用方法

ボールの使い方

- ・オイルダンパー式ピンポン球 1個使用の場合・・・ダンピングが効いてもっとも使い易いが感度がやや劣ります。
- ・ゴルフトレーニングボール 1個使用の場合・・・応答感度が低くやや鈍感に反応します。
- ・ピンポン球 1個使用の場合・・・応答感度が高く敏感に反応します。

(基本的に0.4Gの上限は、上記3パターンどれでも同じですが、路面の影響を受けた時など揺れに対して各ボールの動き(測定値に至るまでの経過)には差が出る場合があります。)

ボウルの設置

- ・ボウルは水平な場所(助手席及び後部フロア等)に置いて下さい。
- ・ボウルから落ちたボールが床を転がらないよう、ボウルより径が大きいボールの受け皿(映画フィルムの缶、植木鉢の受け皿等、画像参照ください)を準備してください。
- ・ボウルに滑り止めの工夫をしてください(マジックテープ、両面テープ、滑り止めマット等)。

チェック方法

- ・運転者は、ボールの動きを見ながら運転操作の加減をするのではなく、ブラインド(ボールを見ない)で運転操作を行なって下さい。結果はボールが受け皿にこぼれたか(0.4Gを超えたか?)どうかで判断してください。
- ・ボールの動きをモニターする場合は、同乗者に依頼してください。

※オリジナルボックス



オイルダンパー式ピンポン球の作り方



(画像は弊社製作、フタ付きオイルダンパー式ピンポン球)

準備するもの

- ピンポン球 40mm
- 針 0.5～1.0mm程度 (穴あけに使えるものならなんでも)
- セロテープ (瞬間接着剤、2液性ボンド)
- 脱脂用ウエス
- ブレーキクリーナー
- オイル (エンジンオイル5W-30 サラダオイル等)
- オイルを入れる容器 (コップ お皿 等)
- ドライヤー

作業手順

ピンポン球に、針で0.5～1.0mm穴を1ヶ所開ける。

容器にピンポン球半分以上の位置までオイルを入れておく。

ドライヤーでピンポン球を暖める、40～60 程度 (**暖め過ぎに注意**)

穴を下向きにして、ピンポン球の下半分程までオイルに浸す。

穴を上向きにして、再度ピンポン球をドライヤーで暖める。

～ を繰り返し、封入オイル量を調整する。

封入オイル量のレベル(位置)は、直径40mmピンポン球の下から1/4(高さ10mm)付近が大まかな目安ですが、封入オイルの種類、粘度によってダンピングの効きが異なりますので次の手順でオイル量を決定して下さい。

ダンピングの調整(オイル量の決定)

- まずオイルを5～6mm入れたところで穴をセロテープで仮止めしてG-BOWLに入れて転がしてみる、0.4G位置から転がしいれて何回往復して止まるかを確認する。
又は0.4G位置から転がしいれて、向かい側の斜面のどこまでかけ上がるかを確認する。
- 次に7～8mm入れたところで同じ確認をする。
- 同様に9～10mm入れたところで同じ確認をする。
- 更に11～12mm入れたところで同じ確認をする。

オイル量が増えるにつれてダンピングの効きが強くなってきますが、ある量を超えると今度はオイルそのものがおもりになって大きく転がり始めます。

オイル量の判断としてはオイル量は少な目でダンピングの効果が程々に得られるあたりが使い易いと思われます。

オイルの封入量が決まったら、ピンポン球の表面をブレーキクリーナー等で脱脂して、セロテープで穴をふさぎます。

ピンポン球が車室内で暖まった時に、ピンポン球の内圧が上昇しセロテープでは止められない事があります、その場合はピンポン球をドライヤーで暖めた状態で封をすればその対策になります。

セロテープの粘着力では不足する場合は、瞬間接着剤、又は2液性ボンドなどを併用します。

注意

オイルダンパー式ピンポン球は、後加工でオイルを封入していますのでオイル洩れの心配があります、使用时以外はビニール袋等に入れて室温(車室ではなく)で保管してください。